

## 課題：再会の場所 ~2050 年

きみたちと、2025 年に退職予定の川人先生が再会をする場所を設計する。再会の時は 2050 年、すなわち今から 26 年ののちである。

この建築は、このコンペ直後に実施設計が開始され、2025 年には完成するという想定である。したがって、竣工後 25 年を経た建築で、君たちは再会を果たすのである。

近代以降の建築、工業化された建築はしばしば着工直後に最も美しく、年月が経つにつれて急激に価値を失っていく。その結果、再開発という名のスクラップアンドビルドが行われるが、自然環境の観点から見て、それは好ましくない。まず、着工後 25 年を経て最も魅力的になる建築を君たちは考えなければならない。

次にこの建築は、2050 年にそこで再会するきみたちに、26 年前の 2024 年の記憶を蘇らせるものでなくてはならない。記憶は鮮やかに、しっかりと、あるいは揺らぎながら、26 年間の時間の重みを伴って、そこに集う君たちすべてのなかに蘇るだろう。

次のような【建築的な思考】が要求される。

- その建築が最も魅力的になるのは、26 年後である。君たちはその姿を描かなければならない。竣工直後の「完成予想図」は、必要ない。したがって君たちは、この建築の周辺環境が 2050 年にどのような姿になっているかも、よく想定しなければならない。そしてこの「未来予想」には、合理的な根拠がなければならない
- 2025 年の竣工から 2050 年まで、この建築はどのように使用されるだろうか？あるいは、どのように使用されないだろうか？  
誰にどのように使用されるかは、君たちの記憶にどのようにかわり、あるいはかわらないだろうか？
- 2050 年の君たちは、この建築にやってきて、2024 年の今日の日を思い起こす。だが、記憶は、建築によってどのように喚起されるのだろうか？ 風景と空間と記憶、この三つの関係を研究してほしい。チープな物や音楽、流行りものによって記憶を喚起させるのはこのコンペの主題ではない。
- 建築は、その時代の技術を表徴するものでもある。ゴシック建築、仏教寺院から近代のオリンピック・スタジアムにいたるまで、記憶は技術とともに刻まれる場合がある。2024 年に、記憶に刻まれるべき技術はあるだろうか？ Digital Technology の可能性について、考察することを勧める。
- ふたたび 1. について想像してみよう。2050 年のある日、君たちはどのようにその場所に向かうだろうか？ 電車から、車の窓から、そして歩きながら、君たちはどのように街を眺め、そしてそれはどのように変化しているだろうか？あるいは何が、変化していないだろうか？誰が街にいるだろう、そして誰が去ったのだろうか？君たちはどのように再会の場所にアプローチし、ドアを開け、その場所に入り、そして誰と最初に言葉を交わすだろうか？  
そして最後には、再びの別れを、どのように告げるだろうか？

### 設計条件

【敷地】札幌市内あるいは近郊の場所において、この課題に適した場所を、各自選定すること。これは「場所の記憶」と関連することであり、極めて重要な作業となることを自覚してほしい。

【機能／規模】25 年後に再会の場所となること以外は、自由に想定してよい。再会する人数や方法（宿泊なども想定される）も各自設定すること。

2025 年から 2050 年までの間、あるいは 2050 年以降、この建築がどのような機能を持つのか、あるいは持たないのかについても考えること。一般的には、長く使用されない建築は老朽化が早くなる一方、美しく時間が刻まれることは難しいことも考慮に入れる必要がある。

【プレゼンテーション】現在の敷地周辺環境を示す図面や写真、そして 2050 年の敷地周辺環境想定図。建築の基本図面と、2050 年時のパースペクティブ等。これらがいわゆる「要求図面」となるが、「建築的思考」の 1 から 5 までをよく読み、それによく応えるようなプレゼンテーションの方法を各自考えてほしい。特に、5 を読めば、これは空間的物語 **Spatial Story** を設計する課題であるとも理解できるだろう。ショートビデオ、アニメーション、あるいは複数のコラージュなども有効な表現方法となりうる。

- 対象：** 北海道科学大学建築学科学部、大学院学生（4年意匠系ゼミ学生は必修/建築ラボセミナー）、学外建築学生有志
- 提出物：** **【必須】** 構想の表現に必要と考える図面、模型写真、透視図、図式、言葉をA1一枚にレイアウトした図面及びそのPDFデータ（作品提出時に必要）  
**【適宜】** 講評審査時の提案者によるプレゼンテーションの際に上記A1図面に盛り込まれていないショートビデオ、アニメーション、模型など提案の表現に有効と考えられるものを自由に準備してもよい。
- 課題説明会：** 課題の出題者である鈴木隆之氏により応募登録者を対象とした課題説明会を遠隔方式により行う。  
説明会開催日時:5月18日土曜日 13時より  
Zoom url は、決定次第登録者に通知する。
- 提出要領詳細：** 提出締め切り日時：8月28日（水）12時  
提出場所：D206 川人研究室  
提出物：A1 図面及びそのPDFデータ（USBなど電子媒体に入れて持参のこと）
- 課題講評審査日程：** 2024年8月31日（土）13時より
- 作品講評審査：** 竹山聖 北海道科学大学客員教授、京都大学名誉教授  
鈴木隆之 北海道科学大学客員教授、武漢大学都市建築学科教授
- オブザーバー：** 川人洋志、岩澤浩一（北海道科学大学工学部建築学科教員）
- 応募登録及び作品提出日程：** 応募登録 2024年5月10日午後5時締め切り、  
作品提出日時：2024年9月上旬（詳細日時は、決定次第登録者に通知）
- 応募登録：** 下記 Google Form 様式に必要事項を入力。  
<https://forms.gle/FQNtwC92CL2MHDEN7>
- 講評審査会場：** 本学製図室
- 顕彰：** 顕彰作品数、顕彰賞品についての詳細は、後日、応募登録者に連絡
- 問合せ：** 川人（E-Mail:kawahito@hus.ac.jp）

以上